

● **総合型選抜入試（旧 AO 入試）：**（5月から8月～エントリー、9月～出願開始 11月～合格発表）

大学側が学校のアドミッションポリシーにマッチした学生を採用する方式。

「意欲・適性を重視」し、学力を問わないことが多かったが、昨今では学力も問うところもある。

原則、専願。原則、高校からの推薦状は必要なし。

選考方法は様々で、OC 参加型、授業体験型、活動実績アピール型、課題提出型などがある。

難関大学は競争率が高い。**※公募推薦の受験勉強と並行して準備をするのは非常にハード。**

基本の流れ パターン① エントリー ⇒書類選考 ⇒出願許可通知 ⇒出願 ⇒入試 ⇒合否発表

パターン② OC 参加 ⇒ 出願 ⇒書類審査 ⇒ 面接審査 ⇒ 合否発表

● **学校推薦型選抜入試（旧推薦入試）：**高校からの推薦状が必要

指定校推薦入試：（9月校内選考、11月～出願開始、入試）

大学側が「なみはや高校からこの条件で何名」と指定し、その条件に合う学生が受験できる。

評定平均値と欠席日数を重要視する。（多くは評定平均3.5以上、欠席日数10日以内）

指定校の有無や条件は毎年変わり、夏休み明けに公開される。校内選考を実施。

選考の条件は、**校内で実施する2回の説明会に必ず参加**すること。

専願なので、合格後、**必ず入学することが条件。**

選考方法は、多くが書類審査と面接。（学力検査や小論文を課す大学も増加）

公募制推薦入試：（11月～出願開始、入試）

主に併願なので、本命校だけでなく、滑り止め校としての受験もできる。

現役生が最も多く受験する入試。高校での成績や実績が評価される方式での受験もある。

選考方法＝学力試験（2教科）＋書類審査が一般的。（文系は主に英・国/理系は主に英・数）

評定平均値が点数化されることが多いので、高校での授業の頑張りが評価される。

特別推薦入試：専門学科（総合学科入試）がここに分類される。昨年度から利用可能になった。

選考方法は、面接や小論文が多い。（龍谷大学、近畿大学、摂南大学、大阪電気通信大学など）

他、高大連携協定校入試や課外活動優秀者推薦入試などがある。

● **一般選抜入試（旧一般入試）：**（12月中旬～出願開始、2月～入試）

専願なし。高校の成績に関係なく受けられる入試。

3教科型入試が一般的だが、**多様な入試制度がある**ので、科目や日程をよく調べておく。

文系は国語（現代文・古文）・英語・社会（地歴B科目） 理系は英語・数学・理科が基本。

● **大学入学共通テスト（旧大学入学センター試験）：**（10月に出席、1月中旬に試験）

センター試験の後継として今年から実施される。日本の大学の共通入学試験。

国公立大学の一次試験として利用されてだけでなく、9割の私立大学で、共通テストを入試で活用している。

「共通テスト利用方式」や「共通テスト・独自併用方式」があり、大学が指定している教科・科目を受験する（2教科2科目～3教科3科目が中心）。英語はリスニングもある。

受験料が安く（12000～18000円）、一度の受験で多くの大学に出願できる点がメリット。